

# 平成二十五年 迎春

# 新年のごあいさつ

新年明けまして、おめでとうございませす。市民の皆さまにおかれましては、すがすがしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、国におきましては師走に総選挙が実施され、自民党が単独過半数を獲得し、民主党に替わって自公連立政権がスタートをいたしました。経済対策、外交政策、震災復興をはじめ日本再生に向けての舵取りを期待するところです。

荒尾市におきましては、自治体の自立に向けた効果的、効率的な行政運営をはじめ、地域産業の推進、教育文化の振興、住民福祉の向上など本市のまちづくりにかかすことのできない重要な課題が山積しており、これらの政策課題に丸となって取り組んでまいります。

私たち市議会は、一昨年5月より「議会改革推進特別委員会」を設置し、議会運営の効率化と機能の強化、そして情報公開の推進、透明性の確保など、さまざまな議会改革を進めてまいりました。その一環として、市民の皆さまのご意見を拝聴し参考とさせていただきます。そのため、昨年5月には市民の皆さま1600人を対象に「市議会アンケート調査」を実施し、52%も

の回答をいただいたところだす。改めて皆さまのご協力に感謝申し上げます。

また、昨年8月には、市議会70年の歴史の中で初めて市議会議員全員による「議会報告会」を市内6会場にて開催し、議会に対する市民の皆さまの多種多様なご意見を拝聴いたしましたところだす。

本会議におきましては、質問の明瞭化と、答弁の明確化を目指し今後の質問形式を確立するため、代表質問制や1問1答制、更には市長はじめ執行部への反問権の付与などの試行を実施したところだございます。

今年には議会改革集大成の年と位置付けており、議員一丸となって「議会基本条例」の制定に向けた詰めの作業に取りかかりますが、議員定数の適正化をはじめとする、議会が痛みを伴う改革も議論しなければなりません。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

どうか、本年も旧年に倍してのご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆さまのますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。

新年明けましておめでとうございませす。

皆さまには、希望に満ちた新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年荒尾市は市制施行70周年の節目を迎え、「夢をつないだ70年」さらに未来へ「はばたけ荒尾」をテーマとして、さまざまな記念事業を実施し、皆さまと共に祝い、新たな一歩を踏み出した一年でした。

7月3日、この日はまさに本市の後世に残る記念の日、念願でありましたラムサル条約に「荒尾干潟」が湿地登録された日だす。この登録を機に今後この干潟を未来へ残す「宝（＝誇り、夢）」として、その保全や漁業の振興、環境教育や観光資源として活用することにより、地域浮揚につなげていきたいと考えております。

また一方で、日中両国の溝が改めて浮き彫りとなった中、11月にシンガポールで開催された孫中山・宋慶齡記念地連席会議では各国の孫文記念館との貴重な交流や情報発信もできましたし、同国孫中山南洋記念館「晚晴園」では、宮崎兄弟生家の梅の木の前で撮つ

た孫文と宮崎滔天らの写真を贈ることもできました。

また、10月には荒尾市日中友好促進会議などにより開催された政治学者である外添要一氏による記念講演会や、8月の中国上海市への本市中学生の友好交流派遣事業なども行った中で、孫文と宮崎滔天の友情の歴史が今も国籍を問わず人と人のつながりを産み出す礎となっていることを強く確信することができました。今後その礎を基に更に交流を深め、広げていきたいと考えております。

今、日本経済は、従来からの財政危機や長引くデフレなどの構造的課題に加え、原子力事故・震災、円高などの外的要因が重なり、これまでにはない状況にあります。しかし、こうした状況にあればこそ荒尾市では、「協働のまちづくり」を基本に据え、今ある「宝」を最大限に活かしながら、地域力を高め、幸せや生きがい、活力を実感できる「まちづくり」に全力で取り組んでまいります。

本年も皆さまにとりまして、素晴らしい年でありますよう祈念申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

荒尾市長 前畑淳治

荒尾市議会議長 島田稔

